



ことしの夏はとても暑かたですが、ようやく過ごしやすくなりました。😊
 いよいよ**読書の秋**がやってきました♪ みなさんもたのしい本
 すぐきな本にたくさん出会えますように♡

**ポケット
NEWS**
ニュース

たのしかったよ♪
なつのはるまつり
 7/19~8/24

8/3おはなし会
 のようすです



鶴岡市立図書館(本館)
 〒997-0036 鶴岡市家中新町 14-7
 TEL (0235) 25-2525

11月29日(土)
 15じ~
すがたりおはなし会
 えほんや道具を
 つかわない語りの
 おはなし会です。いの中に
 おはなしのせかい
 が広がります
 お気軽に
 どうぞ

よこ
 ちょっと気がはやいデスク...
冬のえほんまつり
 12/2(木) 12/25(木)
 冬 冬 冬

ことしは大きいおはなし会やりま
ふゆのおはなし会
 12/7(日) としかん2F
 こうざしつにて



としかん カレンダー

10月

日	月	火	水	木	金	土
			1 4じ~ おはあ	2	3	4 3じ~ おはあ
5	6 (や)	7	8 4じ~ おはあ	9	10	11 3じ~ おはあ
12 11日 おはあ	13 (や)	14 (や)	15 4じ~ おはあ	16	17	18 3じ~ おはあ
19	20 (や)	21	22 8じ~ おはあ	23	24	25 3じ~ おはあ
26 (や)	27	28	29 4じ~ おはあ	30	31	

開館時間 9:30~19:00
 土日祝日 9:30~17:00

11月

日	月	火	水	木	金	土
						1 3じ~ おはあ
2	3 (祝) 文化の日	4 (や)	5 4じ~ おはあ	6	7	8 3じ~ おはあ
9 10日 おはあ	10 (や)	11	12 4じ~ おはあ	13	14	15 3じ~ おはあ
16 (や)	17	18	19 4じ~ おはあ	20	21	22 3じ~ おはあ
23	24	25 (や)	26 11日 おはあ	27	28	29 3じ~ おはあ
30	1休館日(や)	2月曜日	3祝日	4火曜日	5水曜日	6木曜日

館内おはなし会 ぎんぎん
 ・**おはすい** おはなし 水ようび 毎週水よう日 4じ~
 ※えほんのよみきかせ中心・第3水よう日は昔語り
 ・**おはどん** おはなし 土ようび 毎週土よう日 3じ~
 ※まぜのえほん よみきかせなど
 ・**おはちび** 第2日め第4水よう日 11じ~
 ※0.1.2さい向け てあそび えほんなど
 ・**すがたりおはなし会** 第5土よう日 3じ~
 ※語りのおはなし会





日暮れが早くなってきました。月がきれいな季節になりましたね。お月見といえば「中秋の名月」陰暦の8月15日に一番近い十五夜の日と決められているので、毎年日にちが違うんですね。今年の「中秋の名月」は、10月6日だそうです。

この10月の「中秋の名月」というめぐりあわせに感謝して、今回ご紹介するのは、『おだんごダイブ』（大塚健太 小池壮太 絵 白泉社 2023年刊）で、お月見だんごのお話です。

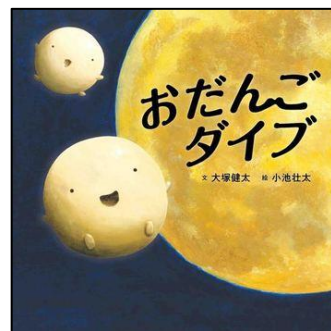
表紙には、立派な満月を背景に、おだんごが二つ（二人？）ダイブしています。ページをめくれば、「おだんごダイブ」の題字の上に「おだんごが とびこみだいに ならんでいます。いちについて おだんご おだんご……」の文章があります。確かに飛び込み台の上には、おだんごが、たくさん並んでいます。

そして、次のページでは、「ダイブ！」おだんごが、おなべの中にダイブしています。もうここだけでも、かわいい。おいしそう。とにかく、おだんごたちが、どのページでも飛び込み台から「ダイブ」しています。

その先は、おなべだったり、「タッポーン」だったり、「パツパン！」だったり、「ぺた」だったりするのです。その結果、おだんごたちは、「みたらしだんご」や、「きなこだんご」、「あんだんご」に変身です。かわいいし、おいしそうだし、わくわく、どきどき、ページをめくるのが楽しいです。残りのおだんごさんは、「とん！とん！とん！とん！」お月見団子の台にダイブ！最後は、みんなお月見だんごになって、大きな大きな十五夜お月様の前に、すまして並んでいます。素敵なお月見の夜です。

見返しには、お月見団子の作り方もかいてありますので、つやつやの美味しいおだんごを作りたくなること間違いなしです。この絵本、対象年齢は？と尋ねられると、何と答えていいやら。乳幼児から、小学生、大人まで。すごく広いのではないかと思います。

おいしいの力なのか、かわいいの力なのか、おだんごの力なのか、お月様のちからなのか。おだんご作りも含めて、みんなで楽しんでください。



『おだんごダイブ』
大塚 健太 作
小池 壮太 絵
白泉社 2023年刊

ポケットの穴 から こぼれた話

「こどものとも」を創刊した松居 直氏は、著書の中で、絵本とことばについて次のように述べています。

『ことばは教えるものではありませんから、読むことよりも聞くことの方が大切です。絵本の絵を見ながら人に読んでもらうというのは、本当に力になる』、『絵本というのは、わかるわからないではなく、一緒にいるということ、そして共にことばを共有しているとか、気持ちが通い合うとか、そういう人間関係がとっても大切なんだと思う』と。

松居氏のこのことばが思い当たるような場面が、私の読み聞かせの日にみられました。その日のゲストは、お母さんと赤ちゃん、それに3歳の女の子の三名です。「こっちにおいでよ、ちびトラ」を読みました。小さな女の子がもらってきた子ネコと心を通わせていくお話。読み進めるうちに、ゲストの女の子は絵本から離れてしまいました。けれども『ちびトラがいなくなった。ねえ、ちびトラ。どこ？』のことばを聞いたとき、絵本の前に戻ってきて、最後までお話を聞いていました。聞けば、猫を飼っているとのこと、写真も見せてくれました。女の子は、主人公とネコとの交流や、いなくなった時に心配になった気持ちを自分の体験に重ねて聞いていたのでしょう。また、絵本が家族で共有する思いをつなげてくれたように感じました。

読み手の私にとっては、絵本の中のことばをていねいに読み、伝えていくことの大切さを再確認できた体験でした。

ポケットメンバーの おすすめ作家紹介

こども時代

1927年8月23日、オランダ中部ユトレヒト生まれ。戦時中にはドイツ軍に連行をされる危機があったため、アムステルダム南部の湖畔に疎開。その間、夢見がちな少年だったブルーナは絵やスケッチにいそしみ、アコーディオンを弾いて過ごした。初めての小説『ヤービー』を執筆。

デザイナー時代

父の出版社でデザイナーとして就職。マティスとフェルナン・レジェに大きな影響を受けた。本の表紙、ポスターを手がけた。1953年はじめての絵本『りんごぼうや』を刊行。こども向けではなく、マティスへのオマージュ。

ミッフィー

ブルーナ夫妻は息子のシルクと家族旅行に行った先でうさぎが3人の前を走っていききました。これがミッフィーの物語の始まりです。オランダではナインチュ、日本ではうさこちゃん、イギリスでは現在のミッフィーという名前で出版されました。ミッフィーの姿は時代とともに変化しています。また製作工程も描くから色紙を切り抜く形に変化しています。

ミッフィーの耳の進化

みなさんは どの耳のミッフィーに なじみがありますか？



『りんごぼうや』
まつおかきょうこ訳
福音館書店 2012
1953年に出版されたものは判型は長方形で顔は描かれていなかった



『うさこちゃん』
いしいもこ訳
福音館書店 1964

『ディック・ブルーナ
“ミッフィー”を生んだ絵本作家』
ブルース・インクマン
ラモーナ・レイヒル著 北川玲訳
河出書房新社 2020

